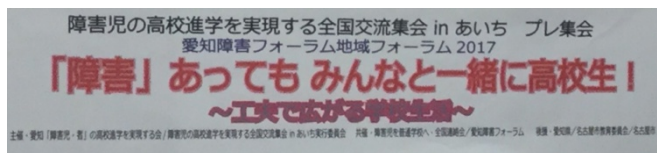


みんなと一緒に高校生

写真の集会在11月4日午後、名古屋市総合福祉会館で開催された。ストレッチャー、車いすの障害をもった人をはじめ、会場一杯に大勢の人が詰めかけた。東京、大阪など、県外からの参加もあった。



講演は北海道から。青野^{ひろむ}洸夢さん、お母さん比奈子さんが「高校生になりました！ ~ 5度の定員内不合格を越えて」と題して、熱っぽく語った。青野さんは昨年から今年にかけ、札幌市内の定時制高校を受験し、6度目の「挑戦」で見事合格。北海道立恵庭南高校定時制で待望の高校生活を送っている。資料に洸夢さんの作文「大好きな高校生活」が入っていた。高校生活でがんばりたいことは、勉強と友だちをつくることだ。洸夢さんはじつに明るく、元気よく挨拶する。講演で洸夢さんが紹介した写真から、学校生活の楽しさが伝わってきた。



講演に続き、地元愛知から3本の報告があった。写真のように、愛知県立日進高校の田川裕大さん、愛知県立瑞陵高校の森美由貴さん、名古屋市立中央高校の久野藍里さん。森さんは30数年前に、名古屋養護学校高等部を卒業。現在でも、障害がある子は小さい頃から学校を分けられてしまっていることが多い。まだまだ、障害がある人もない人も一緒に学べる世の中になっていない。それなら、「自分自身でインクルーシブ教育を実践してみよう」「もう一度勉強をして、大学にチャレンジしてみたい」という二つの思いで、高校を受験したという。森さんが毎日通う瑞陵高校の教頭先生が、大学受験についてエールを送られたのが心に残る。



久野藍里さんとはフェイスブック「友だち」であり、高校生活の楽しさと「苦しみ」を投稿で読んでいた。集会でいちばん言いたいことは、「障害があっても、がまんしなくていい。なんでもチャレンジする」と。中央高校で生徒会副会長として活躍し、勉強でも奮闘努力している。

集会のさいご、わたしが「閉会の挨拶」を。障害に対する思いを語り、今日の集いは「障害児の高校進学を実現する全国交流集会 in あいち プレ集会」であり、愛知県刈谷市で開催される来年9月15~16日の本集会への参加を呼びかけた。

(2017年11月6日)